

2024 年度  
教職課程  
自己点検・評価報告書

城西国際大学

2025 年 3 月

## 城西国際大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

- ・ 経営情報学部 総合経営学科（中・高 社会、保健体育、高 公民）
- ・ 国際人文学部 国際文化学科（中・高 国語、社会、高 地理歴史）
- ・ 国際人文学部 国際交流学科（中・高 英語）
- ・ 福祉総合学部 福祉総合学科 子ども福祉コース（幼稚園）
- ・ 看護学部 看護学科（養護）

※一種免許状

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	3
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	8
III	総合評価	10
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	
V	現況基礎データ一覧	11

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

(1) 大学名：城西国際大学

(2) 学部名：経営情報学部、国際人文学部、福祉総合学部、看護学部

(3) 所在地：千葉東金キャンパス（千葉県東金市求名1番地）

(4) 教職課程の履修者数及び教員数

① 教職課程の履修者数（2024年5月1日現在）

学部	1年	2年	3年	4年	合計
経営情報	38	33	33	21	125
国際人文	10	17	14	7	48
福祉総合	5	12	14	12	43
看護	10	9	6	8	33

② 教員数（2024年5月1日現在）

	教授	准教授	助教	その他
教員数	102	66	57	5

(5) 卒業者の現況 (2024 年度卒業者)

学科 コース	中学校一種				高等学校一種					幼稚園 一種	養護 一種	授与 合計	取得 人数
	国語	英語	社会	保体	国語	英語	公民	地歴	保体				
経営情報学科			4	17			4		17			42	21
国際文化学科	2		2		2			2				8	4
国際交流学科		2				2						4	2
福祉総合学科										11		11	11
看護学科											8	8	8
科目等履修生	1				1							2	1

## 2 特色

本学の教職課程は、建学の精神である「学問による人間形成」に基づき、幅広い国際的視野と高度な専門的知識・技能を兼ね備えた教員の養成を目的としている。具体的な支援体制として、外部講師を招聘した「教員採用試験対策講座」を開講し、一次・二次試験における小論文、模擬授業、面接指導等を網羅的に指導している。また、2024年度からは、中・高・養護の教職履修者を対象に希望教科別の「教員採用模擬試験」を導入し、専門教科対策のさらなる深化を図った。設備面では「教職支援室」を設置し、自治体別の過去問題集や教科書を整備するとともに、電子黒板を導入することで、ICT化が加速する教育現場で即戦力として活躍できる人材の育成にも注力している。地域および教育委員会との強固な連携を推進しており、千葉県・千葉市が実施する「ちば！教職たまごプロジェクト」への参加や、令和6年度より新たに参画した教育委員会指定の「特別支援フレッシュサポート事業」等を通じて、学生の教職に対する士気向上と地域貢献を両立させている。さらに、卒業生に対する継続的な支援も本学の大きな特徴であり、採用試験対策や現職教員との情報交換会を定期的を開催することで、在学生と卒業生が互いに刺激し合い、共に高め合う「教職コミュニティ」の形成を実現している。

## 各学部の教職課程の理念等

### 2-1 経営情報学部

当該学部はグローバルとローカルの統一的な視点を持ち、「考える力」「気づく力」「創り出す力」と実行力豊かな「マネジメント力」を備えた教員を目指しています。国際的な視点を持ち、ビジネス領域に加え、公的機関や非営利組織、スポーツ・健康分野、消費生活、情報通信という様々なマネジメントを学ぶことで、幅広い視野と知識、管理能力を身につけた教員を養成します。

#### 目指す教員像

##### 教科名：保健体育科

保健体育の知識に加えて、少子高齢社会の中で、健康作りやスポーツの指導、そしてそれらの活動の組織的な運営に必要なマネジメント知識を有する教員を養成します。心と身体を一体としてとらえ、心身の健康の促進を図り、運動の実践をとおして、生涯にわたり健康を保持推進する知識と実践力を教授できる教員を養成します。

##### 教科名：社会科

国際的視野に立って社会に対する関心を高め、ビジネスやマネジメントの事例を活用して、社会科の地理・歴史・公民の各領域における学びの有用性をわかりやすく教授できる教員を養成します。また、日本の政治・経済・文化に関する最新の知識とともに、世界、とりわけアジアに関する基礎的教養を兼ね備えた教員を養成します。

##### 教科名：公民科

現代社会への深い洞察力を有し、国際的視野に立ち、問題意識を持って各種課題に取り組める教員を養成します。国際経済、国際経営を学ぶことで、グローバルマネジメント能力を養います。また、人間としての在り方、生き方について探求し、平和で民主的な社会を創造できる人材を育てる教員を目指します。

### 2-2 国際人文学部

当該学部は、グローバル化社会に対応すべく、言語力とグローバル・センスを有し、国際社会で強いリーダーシップを発揮できる教員の養成を目指しています。国際文化学科では国際的な視野と語学力、異文化理解力を有し、柔軟な発想と行動力を備えた教員を養成します。国際交流学科では実践的な語学力と国際交流のための知識とコミュニケーション能力を身につけた教員を養成します。

#### 目指す教員像

##### 教科名：国語科

日本語学と外国語を学び、比較することによって、日本語とその表現の特質を客観的にとらえて教育に活かすことのできる教員を養成します。また、異文化理解能力をもとに他者理

解の態度やコミュニケーション能力に優れた教員，古文や古典芸能などの言語文化を通して日本の伝統文化を次世代に伝えられる教員を養成します。

#### **教科名：英語科**

英語を世界共通語として認識し，併せてさまざまな国の言語・文化に興味をもち，異文化理解を推進することができる教員を養成します。また，異文化を受容すると同時に，自文化に対する認識を深め，国際社会において自分の意見を発信することができる教員を養成します。

#### **教科名：社会科**

現代社会をグローバルな視点でとらえ，総合的な知識と思考力を身につけ，それをわかりやすく解説することができる，良識ある教員を養成します。また，他者理解の力を身につけ，悩んだりつまづいたりする生徒に寄り添い，共に行動できる教員を養成します。

#### **教科名：地理歴史科**

アジアをはじめ，世界の中での日本の課題と役割を踏まえて教壇に立つことができ，広く深い専門知識を身につけ，良識を持って行動できる教員を養成します。また，優しさと厳しさを併せ持ち，生徒の社会認識の確立と人間としての自立を支援できる教員を養成します。

### **2-3 福祉総合学部**

当該学部は，国際大学において，世界共通の福祉の学びをとおして，異文化理解と受容力を習得し，グローバル化社会を担う教員の養成を目指しています。社会福祉士，精神保健福祉士，介護福祉士，保育士などの国家資格で求められる福祉知識に加えて，多様な社会問題を主体的に考察し，さまざまな立場から現代社会を教授することができる教員を養成します。

#### **目指す教員像**

##### **幼稚園教諭**

幼稚園教員として，子どもの遊びについて音楽・図画工作・体育の各教科を統合した教育方法を実践から学ぶことをとおして，子どもの主体的な学びを適切に援助できる幼稚園教員を養成します。また，福祉の視点から，ソーシャルワークの知識を活かし，子育て支援の現場で様々な相談・支援活動にあたることのできる教員を養成します。さらに，専門教育（保育士）の知識を併せもつことで，保育・乳幼児教育に関する高度な知識と技術を兼ね備えた教員を養成します。

### **2-4 看護学部**

当該学部は，児童生徒の心身の発達と社会との関係を理解し，健康を守り，発達を促進し，児童生徒が健やかな状態で学習活動を展開できるような支援者としての養護教員の養成を

目指しています。健康と教育に関する専門的な知識と技術に加えて、薬学の知識、福祉の知識を有し、コミュニケーションによる対人関係構築能力を基盤とした思いやりのある養護教員を養成します

## **目指す教員像**

### **養護教諭**

養護関連科目をとおして看護学の知識と技術を学び、実習科目をとおしてコミュニケーション能力を養うことで、児童生徒に寄り添い、傾聴し、理解しあい、助け合うことができる養護の教員を養成します。また、課題を探究し、児童生徒を取り巻く環境の変化に応じて、他の教員と連携して役割の拡大に対応できる養護教員を養成します。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

##### 〔現状〕

教職課程を設置する全学部の教員で構成される「教職課程運営委員会（年4回）」と、実務的な協議を行う「教職実施委員会（年2回）」を組織し、全学的な運営体制を確立している。委員会では、本学が養成する教員像の再確認、カリキュラムの継続的確認、教育実習・介護等体験の進捗管理、および法令改定等の最新情報の共有を組織的に実施している。また、目的・目標を具体化する資料として2017年度から『JIU教職課程年報』の発行を継続し、教職員が教育目標を振り返り、研究し続ける環境を維持している（資料1-1-1）。

##### 〔優れた取組〕

教務部教務課が実務運営を担い、教員と事務職員が密接に連携する「教職協働」の体制が定着している。年度初めに策定した活動計画は最終的に学長室へ提出し、大学全体の取り組みとして位置づけている（資料1-1-2）。また、Microsoft Teamsを活用し、法令改定や教育現場の最新動向、採用情報などをリアルタイムで共有する仕組みを構築しており、迅速な対応と教職協働での共通理解の維持を実現している。

##### 〔改善の方向性・課題〕

教職員間での目標共有は図られているが、学生自身の自己目標設定に結びつけ、学習意欲を引き出す「目標の浸透」に課題がある。令和6年度は、オリエンテーションにおいて卒業生教員のコメントや教育現場のリアルな声を取り入れ、学生が教員像を具体的にイメージできる参加型コンテンツを導入する。また、FD・SD研修を活用し、全教職員が教職課程を全学的な最重要課題として共有できる場を検討していく。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1：教職課程年報（「情報公開」ページ内）
- ・資料1-1-2：2024年度委員会活動計画書・報告書

## 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

### 〔現状〕

教職課程運営委員会を設置し、研究者・実務家教員が教育面を、教務部教務課が実務を担う協働運営を行っている。教員採用試験の過去問題集や教科書を整備した「教職支援室」（資料1-2-1）を設置し、学生が自主学習できる環境を整えている。また、「JIU ポータル」（資料1-2-2）を通じて学生への連絡や授業評価アンケートを実施しており、情報収集しやすい環境を構築している。

### 〔優れた取組〕

教職員が役割を分担しつつ、委員会での課題検討や情報共有を通じてコミュニケーションを図り、不備のない運営体制を整えている。ICT（Teams やポータルシステム）を積極的に活用することで、教員および学生への連絡を極めてスムーズに行っている。

### 〔改善の方向性・課題〕

各クォーターで実施している授業評価アンケートが個別の改善に留まっているため、今後は教職課程の理念に基づいた実質的なカリキュラム改編に繋げる組織的取組が求められる。また、教職支援室の利用が特定の時期に偏っているため、学生が年間を通して日常的に利用したくなるような仕掛けづくりを含めた運営体制を工夫していく。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料1-2-1：教職支援室
- ・ 資料1-2-2：JIU UNIVERSAL PASSPORT RX

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状〕

大学案内やホームページで積極的に情報を発信し、教員免許状が取得できる大学であることをアピールしている。各年次でのオリエンテーションを実施して教職の魅力発信と事務手続きの漏れ防止に努め、『教職課程履修要綱』（資料2-1-1）をオンライン公開して適切な指導ができる体制を整えている。また、JIUポータルを利用して履修カルテを電子化し、学習状況をリアルタイムで確認した履修指導を行っている。

#### 〔優れた取組〕

新入生オリエンテーションでの対面紹介からオンデマンド配信へ繋げ、さらに「教職論」で4年間の免許取得までのアウトラインを示す段階的な指導を行っている。履修カルテと科目を紐づけることで、教員が学生の学習状況を容易に把握し、個別の履修指導に活用できる体制を実現している。

#### 〔改善の方向性・課題〕

看護師免許の取得や留学など、教職課程との両立を目指す学生が多く、進級時に履修を取りやめる学生が一定数存在する。学生が辞退する内実に向き合った指導を充実させるとともに、年間履修単位数内に収まる時間割設定など、大学全体として辞退者の減少に努める必要がある。

#### <根拠となる資料・データ等>

・資料2-1-1：城西国際大学 - 教職課程 - 在学生の方

## 2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状〕

各自治体等の募集情報を教務課で集約し、Teams や掲示で迅速に提供している。教職支援室では、特別講師を招聘した「教員採用試験対策講座」や勉強会を実施し、小論文や面接、筆記試験等の対策を行っている。令和 6 年度からは、教育実習事前審査参加者を対象に希望教科別の「教員採用模擬試験」を導入し、4 年次の本試験への足掛かりとしている。

### 〔優れた取組〕

教職を目指す全学部の学生が集まって受講する講座は、学生のモチベーション向上に大きく寄与している。また、現任教員の卒業生を招いた情報交換会を定期開催し、現場に近い交流の場を設けている。卒業生への個別指導や一般企業就職後のフォローなど、手厚い継続支援も本学の特徴である。

### 〔改善の方向性・課題〕

情報の提供をさらに迅速化させるとともに、学生個々のニーズに寄り添った支援を目指す。特に卒業後に教職に就いた者の動向を精査しきれていない現状があるため、定期的なアンケート調査を実施し、その結果を今後の指導やキャリア支援の充実に活かしていく必要がある。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2 - 2 - 1 : 教員採用試験対策講座  
[250311 資格リーフ\\_中](#)

## 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

### 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

#### 〔現状〕

文部科学省令に定める科目から、教育の基礎的理解、各教科の指導法、大学独自科目まで、適切にカリキュラムを配置している（資料3-1-1）。授業内容や評価方法はシラバス（資料3-1-2）に明示している。教職課程運営委員会や学生アンケート等を通じて、適宜授業内容の改善を図っている。

#### 〔優れた取組〕

『教職課程履修要綱』で履修方法を明確にし、教育実習の受講要件として「3年次終了時点で GPA2.00 以上」を課すことで、適切な人材を現場に輩出する質保証を行っている。

#### 〔改善の方向性・課題〕

試験の早期化に伴い、3年次からの講座参加をさらに強力に周知・推奨する必要がある。また、各自治体での試験時期分散に対応するため、受験指導の長期化や個別化を見据えた支援体制の構築を検討していく。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：学生便覧
- ・資料3-1-2：シラバス検索

### 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

#### 〔現状〕

「ちば！教職たまごプロジェクト」への参加を促し、地域の学校での教員を目指す学生を支援している。令和6年度からは、新たに教育委員会指定の「特別支援フレッシュサポート事業」に参画し、4名が現場実習を経験した。介護等体験では、東金特別支援学校の協力を得て実施している。

#### 〔優れた取組〕

地域連携推進センターを設置し、全学的に地域と連携した取り組みを推進している。教職課程においても、県外出身学生が千葉県内の教員として採用されるなど、地域に根差した人材育成に貢献している。

#### 〔改善の方向性・課題〕

東金市教育委員会との連携をさらに深化させる必要がある。かつて実施していた学習チューター制度の再活性化や、近隣校での実習・ボランティア推進など、大学と地域が win-win となる仕組みを提案していく。プログラムの魅力を学生へ周知し、参加者数の維持に努める必要がある。(資料3-2-1)

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：教職インターンシップ・学習チューター制度

### Ⅲ 総合評価

本学は1992年の開学初年度に課程認定を受けて以来、建学の精神に則り、一貫して地域社会および国際社会に貢献できる教員の養成に注力してきた。入学当初から公立学校の教員を志す学生も多く、在学中の多角的な支援と学生自身の努力の積み重ねにより、千葉県をはじめとする各自治体の教員採用試験において着実な合格実績を収めている。近年の傾向として、採用試験の早期化に対応した指導が功を奏し、3年次・4年次での現役合格者が増加しているほか、卒業生による合格実績も伸長しており、本学の教職支援が卒業後も機能する「教職コミュニティ」として定着している点は高く評価できる。

全体として、少子高齢化やICT教育の急速な普及といった社会構造の変化に対し、各教員が授業内容を工夫し、教員に求められる情報活用能力やICT活用指導力の育成に対応した学びを提供している。特に、学内システム「JIUポータル」による履修カルテの電子化や、令和6年度に導入したデジタル教科書および教員採用模擬試験などの取り組みは、学修成果の可視化と学生の主体的な学びを支える重要な基盤となっている。

一方で、教職課程の履修を途中で取りやめる学生へのきめ細かなフォローや、さらなる履修指導の徹底には依然として課題が残されている。また、各種体験プログラムへの参加者が一部で低迷している現状を真摯に受け止め、学生のニーズに即した周知方法の改善や、参加意欲を喚起する動機付けの強化が必要である。

今後は、本報告書による自己点検・評価の結果を次年度のアクションプランに確実に反映させ、PDCAサイクルを実質化させていき、東金市教育委員会をはじめとする地域社会との連携をさらに深化させ、学生が卒業後の進路として教職を有意に選択し、教育現場でリーダーシップを発揮し続けられるよう、全学的な支援体制の不断の改善と教育環境の充実に努めていく。

#### IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

教職課程運営委員会に所属する教務課を中心に、年間の活動計画および実績データに基づき作成した。

#### V 現況基礎データ一覧

大学名称	学校法人城西大学 城西国際大学			
学部・学科名	国際人文学部	国際文化学科		
		国際交流学科		
	観光学部	観光学科		
	経営情報学部	総合経営学部		
	メディア学部	メディア情報学科		
	薬学部	医療薬学科		
	福祉総合学部	福祉総合学科		
		理学療法学科		
看護学部	看護学科			
1.卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数（2024年度）				
① 卒業生数	1,244			
② ①のうち、免許状取得状況	46			
③ ①のうち、就職者数	1,019			
④ ①のうち、教職に就いた者の数	24			
⑤ ③のうち、正規採用者数	14			
⑥ ③のうち、臨時任用者数	10			
2.教員組織				
	教授	准教授	助教	その他
教員数	102	66	57	5